

ヘルスケーススタディー

近代医療と代替医療、その他のヘルスケア、健康分野での具体的な症例に対する「症状」「診断」「治療」「予防法」などを聞く

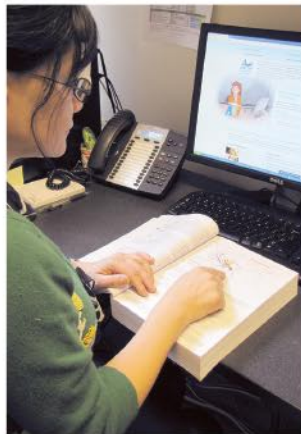
大学入学のストレスで発症 薬物と心理療法で症状改善

症状

大学に入学し、念願の一人暮らしを始めたが、特に理由もないのに気分が落ち込んで不安定になり、「死んでもいい」と思い詰めるようになった。なんとか学校には通っていたが、行くと具合が悪くなり、授業に出られなくなりました。

診断と治療

石川先生が話を聞くと、この女性は、胸が苦しい、人が怖い、誰もいないのに人の声が聞こえる(幻聴)、実



患者と家族の両方に来院してもらい、統合失調症という病気や、薬の働きなどについて、図や写真を使って説明する。症状の改善と維持には、家族のサポートが欠かせないという。

病名	統合失調症		
年齢	10代後半(学生)	性別	女性(アメリカ人)

際に存在しないものが見える(幻視)、警察に尾行されているなど、明らかに間違っていた考えや状況を信じてしまう(妄想)などの症状を訴えた。ほかにも不眠と食欲低下がひどく、どんどんやせてきたという。

頭部コンピュータ断層撮影(CT)検査の結果、脳に異常はなかった。そこで、症状と「喜怒哀楽に乏しい表情」などから、統合失調症と診断された。

「統合失調症とは、幻覚や妄想といった症状を特徴とする精神疾患です。遺伝や環境因子が原因と考えられています。この女性のように大学進学を機に一人暮らしを始め、そのストレスから突然発症する若者は珍しくありません」と石川先生は指摘する。

管理

石川先生によると、統合失調症は、薬を止めると症状が再度前面に出てくる可能性が高い。医師の指導の下、薬の効果と副作用を定期的にモニターし、再発予防に長期的に取り組む姿勢が大切という。

この女性は、エビリファイ服用を始めたところ1カ月は、学校にもほぼ普通に通えるほどに回復し、治療に前向きに取り組んでいる。

(大村智子)



石川敦子先生
(Atsuko Ishikawa, MD)

精神科医師(米国精神神経学会認定)。長崎大学医学部卒業後、同大病院内科レジデンスを経て来米。アイオワ大学病院・クリニックで精神科レジデンス、児童思春期精神科フェロシップを修了。米国精神学会および米国児童思春期精神医学学会の会員。

Information

日本クリニック
Nihon Medical Healthcare
15 W. 44th St., 10th Fl.
(bet. 5th & 6th Aves.)
TEL: 212-575-8910
www.nihonclinic.com